

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373600390		
法人名	株式会社ほっとファミリー		
事業所名	グループホームほっとファミリー		
所在地	愛知県江南市野白町野白12番地		
自己評価作成日	平成23年 1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2373600390&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2373600390&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成23年 2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で安心した環境となっている。職員もやさしく接することができており、本人にとって必要な援助が行われている。精神的に安定するのが早いように思われる。医療面においても、主治医や訪問看護ステーションとも連携がとれており、医療の必要な人も受け入れることができる。等施設に関わらず、本人にとって必要な状況と環境を考え、援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改造型の利点を最大限に活かし、家庭に住み続ける感覚を大切に工夫した手厚い支援がある。職員の定着も良く、馴染みの関係での支援を実現し、利用者・家族と職員が、家族のような関係で日常を過ごしている。今年度は、日常支援を『業務』と再認識し、年数を重ねることによって生じた「慣れ合い」を一掃することに取り組んだ。職員各自の価値観に偏りがちな日常支援を、「仕事の平準化」として振り返り、職員のレベルの底上げに努めている。また、それとともに、記録の充実にも着手し、介護記録や介護日誌の記録方法、家族への報告方法等、具体的・効率的に業務改善を進めている。そんな管理者や職員の必死の努力とはうらはらに、利用者の日常はいたって穏やかである。何がその人にとって本当に必要であるかを思いやる、温かい支援の賜物であると言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた介護支援を目指し、申し送り等で情報の共有と、介護を実践するよう心がけている。	ホーム理念として「みんな一緒に、みんなが楽になる暮らし・ホット」をパンフレットに掲載し、理念を意識した家庭的な暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事への参加は、行っているが、利用者の高齢化も進み、実際の参加は少なくなってきた。ゴミ出しなどは利用者で行い、地区の皆さんの協力と理解を得ている。	町内会に入っており、地域の一員としてのお付き合いができています。地域行事や近隣の散歩などで、地域とつながりのある暮らしを意識して、利用者の日受生活を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なるべく外に出て地域の人とのふれあいを目指している。具体的な方法は取れていない。地区での回覧などを考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長さんからの質問や提案などが今年は多く頂いた。又、包括支援センターの職員から、認知症についてのお話をしてもらうことが多い。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者家族、区長、民生委員、包括支援センター職員、訪問看護師等が参加している。防災や事故防止などの施設の課題について話し合い、意見を出し合って運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当が一年ごとに変わる為、なかなか、馴染みの関係になりにくい。しかし、独居の方の受け入れを依頼されることが多く、連携は取れていると考えている。	運営推進会議に包括支援センター職員が出席している。施設の現状や課題について話し合い、情報を共有し、協力関係を築いている。また、市から独居高齢者の相談や受け入れ依頼等があり、相互に協力できる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、皆で話し合い、何がそれに当たるかを理解し、施錠や転落予防に取り組んでいる。家族にも説明し理解と同意を得ている。	階段リフトの設置や階段マットの交換を行い、転倒や転落防止に工夫したり、離床センサーを設置して転倒予防を図ったりと、利用者の行動の自由を損なうことなく、職員の目が行き届くように配慮している。利用者の安全確保と身体拘束の違いを職員間で話し合い、周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	皆で虐待となりそうな状況を見極め注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解しにくいため勉強会を考えている。現在利用者が居ないが必要などが近いと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は直接聞きとり、反映している。	家族の来訪時に、話す機会を持ち、意見や意向を聞き取るようにしている。運営推進会議に家族の参加があり、意見交換を行っている。聞き取った意見については、職員間で周知し、迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを行い話し合っている。	職員はカンファレンスで意見を述べており、職務体制などの相談については、管理者や主任に直接話すことができる。毎日の申し送りノートに、職員が意見を記載しており、職員が意見や提案を表す機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務は本人の希望を取り入れており、給与なども考慮している。評価票などで、状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはプリセプターを就けている。又、そのときに応じて指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などにも積極的に参加している。同業者とも交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所一週間は特別に観察し、交流を持ち把握している。個々に受持ち制として一人ひとりに注意を払って安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に努めて意見を聞くようにし、不安なことは援助している。また、状況などを連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に聞き取りをし、最適な方法を検討している。食事のこと、医療のことなども家族と相談して決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の中で信頼し合えるように声掛けや、スキンシップなどを心がけ安心して話してもらえるようにしている。利用者から、久しぶりとか有難うと声を掛けてもらえることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どうしたら、本人が安心できるのか、家族と話し外出や面会など制限せずいつでも援助することを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも快く訪れることができるように支援している。また、食事や外出外泊を勧めている。	利用者の友人の来訪にいつでも対応できる旨をホームから家族に呼びかける等、関係継続を支援している。また、家族に対して、外泊や外出を促す働きかけを行っており、利用者が家族と墓参りに行くなどの習慣を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にレクリエーションや食事をし、仲良くできるように関係づくりに努めている。現在お互いを認め合い、気にしあうことが多く、緊急時には職員に報告してくれることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、様子を伺ったり相談に乗るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状態を把握し、本人の意向を汲み取り、できる限り要望に添うようにしている。少しでも本人の気持ちに近いように提案し、検討している。	日々の暮らしの中で利用者に意向を問いかけており、希望に沿うようにしている。利用者の発言内容や表情、日々の思いを記録に残し、職員間で共有し把握に努めている。継続支援につながる内容は、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や暮らしの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	注意して状況を観察し、皆で話し合っ、状態観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合っている。	日常の関わりで、聞いたり把握した情報をもとに、職員がカンファレンスで意見を出し合っている。状態や状況に即応して介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや、記録を読むようにし、特別なことは、申し送りノートを作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に必要なサービスや医療などの必要性を検討し家族と話し合いながら、援助している。助けが必要なときは惜しまず援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の人は知り合うことは出来るも、地域とのつながりは少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは連絡を取り合い、往診もお願いしている。他科受診のときは情報を提供してもらっている。病院が違うところのときは、有償ボランティアや家族にお願いしている。	月1回提携医の往診があり、利用者の状態の変化など、健康管理全般を支援している。他科受診は家族や有償ボランティアが通院介助を行う等、利用者・家族の希望に沿って柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は気がついたことがあると、施設の看護師に報告をし指示を受けている。訪問看護師とは連携が取れており相談、緊急時の対応など支援をお願いしている。入院時の状況も把握してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は最初から病棟スタッフと退院時のことや、入院時の状況などを報告してもらっている。退院時は主治医や相談員と連携を取り話し合いをしている。直接医師より話を聞くとときもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、スタッフ、訪問看護と話しをし、施設でできること、今後のことなどを話会う機会を設けるようにしている。当施設での介護が限界であるときは、その後の支援をしている。	重度化に伴い、ホームが中心となり、家族と医師等を交えて話し合いを行っている。「認知症対応型共同生活介護事業における看取りに関する指針」を家族に提示して口頭で説明を行い、家族は納得後、同意書に記入している。ホームのできる限りの支援を基本とし、利用者・家族の希望で、看取り支援の事例は多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応はできているが、管理職や看護師がいないときには、できないこともあるため、指導が必要となることもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	なかなか、訓練が実施出来ずにいる。利用者の体調不良や、高齢化などあって計画できていない。	水消火器を使って消火訓練を実施している。災害時には窓を開放し、建物両側の庭に利用者を誘導するように職員に指導している。運営推進会議で、区長から「隣近所の協力が大事である」と、理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の背景や今までの状況から、考慮しえ原因を探りながら、尊厳を損なわない配慮をしている。	「おむつ交換時やトイレでの介助の際は他の人に見えないように気をつける」「個室や風呂場で着替える」「失禁時の配慮」等、具体的に利用者のプライバシー確保を指導している。その指導が功を奏し、誇りやプライバシーに配慮した対応につながっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見を聞けるように働きかけ、自分で決められるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のルールと本人の希望が折り合いがつくように話を聞き、なるべく本人の希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替え、洗面、身じまいを援助している。ボランティアの理容師さんが来てくれているが、本人の希望で美容院にもお連れしている。化粧なども公認で本人のリズムで行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは、今も続けてしてもらっている。出来ないことは出来る人が一部手伝うことも見られる。食事と一緒に食べられるときは、話をしながら、又、誤嚥などに注意しながら見守りしている	食器拭きなど利用者が出来る事で、片付けを中心に参加してもらっている。食事を楽しみにしている利用者のために、好みを優先した献立を取入れたり、行事食を工夫したりと、楽しみに配慮した支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック票を利用し、把握している。水分摂取のチェックが必要な人は特に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っている。本人に応じた歯磨き粉を使うこともしている。入れ歯などは、見守りで清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は睡眠優先にしており、紙おむつの人がいるが日中はリハビリパンツでトイレを利用している。本人の意思を重視していきたいときにトイレに行くようにしている。紙を渡し自分で始末してもらっている。清潔を保つため、入浴の無い人は陰部洗浄をしている。	利用者のトイレに行きたいという意思を重視し、トイレでの排泄を支援している。現在の状態を維持するため、リハビリパンツを引き上げる時に、手すりを持ってもらうなど、残存機能を維持できるように各々に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行い、便秘気味の方は主治医から投薬があり、こちらで管理している。腸内環境を整える為毎朝ヤクルトを飲んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助の人が多いため日にちを決めているが、一人でゆっくりとは入りワンツーマンで見守り介助している。入りたくない人もいるが、本人の気が向くようにして、無理強いしないようしている。	入浴は一人につき概ね2日おきに行っている。入浴を好まない利用者には、他の人が入浴しない日曜日に、個別にゆっくりと対応する等、無理強いのない対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に援助しており睡眠は取れている。日中も昼寝などが必要な人は実施している。環境も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違えないよう工夫している。用法なども理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長くなってくると、体力気力が低下してきているので、全員が出来てはいないが、自分の役割を理解して過している人もいる。なるべく楽しく出来るよう行事も行っている。(誕生会、季節行事)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出してもらうこともある。施設の行事はなかなか、出かけられなくなってきた。喫茶店、食事会などは行っている。	気候の良い時は、近隣の散歩に出掛けたり、行事外出を頻繁に行っている。毎日出かけたい等の要望がある利用者には、個別対応で、出来るだけ希望に沿って外出できるように対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持っている人もいますが、使うことはあまりない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添うようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大事にしており、居心地のよい感じとなるよう配慮している。	テーブルには季節の花を飾る等、家庭的で居心地のよい雰囲気を作り出している。利用者は思い思いの自分の場所で、新聞を読んだり、くつろいだり、うたた寝をしたりと自由な暮らしを楽しんでいる。民家改造型の利点を活かし、一般家庭の趣を最大限に活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う人とはベンチで会話を楽しんでいる。自分の部屋で過ごす人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく以前使っていたものを利用してもらいたいが、簡素なものになることが多くなった。	ホーム側の配慮で、利用者の必要に応じて居室に配置された家具も、利用者が自宅から持ち込んだ家具と調和がとれており、家庭的で落ち着いた居室となっている。居室自慢の利用者もおられ、楽しい視察となった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活を送れるようにしており、移動もしやすいようにしている。		